

第4号様式(第10条関係)

会 議 録 (要 旨)

会 議 名	第5回武蔵村山市男女共同参画推進市民委員会
開 催 日 時	平成20年 11月 14日(金)午後2時 ~ 4時
開 催 場 所	緑が丘ふれあいセンター男女共同参画センター学習室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者:(委員)荻原恵子、鴻田臣代、内野登志子、清野智美、宮川文、 鈴木寿子、矢口幸恵、浜浦秀行 (欠席)三浦千恵子、栗原誠 (事務局)木村主査、橋本主事
議 題	1 報告事項 (1)第4回男女共同参画推進市民委員会の会議結果について (2)その他 2 議 題 (1)情報誌「YOU・I」第17号の編集について (2)ワーク・ライフ・バランス講演会について (3)その他
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	1 報告事項 (1)第4回男女共同参画推進市民委員会の会議結果について 第4回男女共同参画推進市民委員会の会議の結果について報告。 (2)その他 2 議 題 (1)情報誌「YOU・I」第17号の編集について ・第17号の特集のテーマは、「いいとこ、武蔵村山」とする。出産、仕事、自治会の3つを取り上げ、武蔵村山市のいいところを記事にする。 ・編集の役割分担は次のとおりとする。 「特集」- 委員全員。 はじめ(市全体のいいところ): 荻原委員、鈴木委員。 出産: 矢口委員、宮川委員、三浦委員。 仕事: 鴻田委員、栗原委員。 自治会: 浜浦委員、内野委員。 終わり(こうなるとさらにいい): 清野委員。 「What's the number?」- 事務局。 「ふれあいセンターPR(「BOOK/VIDEO」含む)」- 宮川委員、清野委員。 「YOU・Iフォーラムの報告」- 委員全員。 「ゆうあい後記」- 委員全員。 ・各自、特集の仮の原稿をまとめ、事務局へ1月5日までに送付する。 (2)ワーク・ライフ・バランス講演会について ・ワーク・ライフ・バランス講演会は、12月4日(木)午前10時ふれあいセンター多目的室に集合。 (3)その他 ・第9回YOU・Iフォーラムは、11月30日(日)午後1時集合。 ・第8回市民委員会は、平成21年1月16日(金)午後2時から開催。

<p>審議経過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。)</p>	<p>1 報告事項 (1) 第4回男女共同参画推進市民委員会の会議結果について (事務局) 第4回男女共同参画推進市民委員会の会議の結果について報告。 - 質疑・意見等 - 特になし。 (2) その他 - 質疑・意見等 - 特になし。</p> <p>2 議 題 (1) 情報誌「YOU・I」第17号の編集について (事務局) 第17号の発行時期については、平成21年3月初旬の予定である。誌面構成等については、今回の第16号を参考にしてもよいし、特集により自由に変更してもらってもよい。特集の設定についても、自分たちでテーマを決めてもらいたいのだが、第3回の会議資料で配布した「特集のテーマについての一覧」を参考にしてももらってもよい。 (委員長) 事務局からの説明のあったとおり、発行時期は、平成21年3月上旬ということによろしいか。 (委員) 異議なし。 (委員長) 今回第16号を発行してみて誌面構成は、いかがだったか。 (事務局) テーマを先に決めると、話が進みやすいと思う。 (委員長) 第16号は「ワーク・ライフ・バランス」を特集にしたが、第3回の資料のテーマ一覧に限らず、今回とりあげたいテーマがあれば意見を出してもらいたい。 (事務局) 第16号の特集を決めるときに、ワーク・ライフ・バランス以外で出た意見を参考にしてみたらどうか。自治会の加入について新住民と旧住民との関係のこと、商店街についてや男の人の生き方についても話が出ていたと思う。 (委員長) また、保育園に預けて働きたいけどなかなか働けないことなど、働き方について考えたいというような意見も出ていた。 (委員) 第16号の特集は、ワーク・ライフ・バランスだったが、それに関連して、男性のデータがあまりとれなかったので、団塊世代の生き方について特集を組んだらどうか。 (委員長) 第16号を特集して気になる気づきを、今回方向性を決めて深く調査していくのも、一年間かかわって編集していく中ではいいのではないか。 (委員) 収入が安定しないと、ワーク・ライフ・バランスといっても理想論にすぎない。日本の今の企業の考え方が変わらない限り、このままの状況でいってしまうと思う。トヨタのような大企業が、率先してサービス残業を減らしたり、単身赴任を減らしたり等するのは、企業経営に関係してくるのでそう簡単にはいかないのかなと思う。現実問題、中小企業に勤めていると、朝から晩まで働かないとやっていけないということもある。 (委員) 企業が変わらないといけないと思う。不況になっているから余計に感じるのかもしれない。 (委員) 第16号の「ワーク・ライフ・バランス」を特集して感じたことは、職場や年齢等によってバランスはそれぞれ異なる。でも、その人にとっては、今そのバランスが生活の中で必要である。こうでなくてはいけないというバランスはないんだと気づいた。</p>
--	--

今、武蔵村山市の人口は増え、7万人になった。新しく武蔵村山市に越してきた人に、勤め先は市外か市内か、そして武蔵村山市の良さについて聞き、特集としたらどうだろうか。なぜ武蔵村山市を選んだのか等、興味がある。

- (委員長) 新住民から見た武蔵村山市を男女共同参画とどうリンクしていくか。
- (委員) 今出た話だと、男性の生き方と新住民から見た武蔵村山市は関連できそうだが、中小企業についてはどうとらえたらいいのか。
- (事務局) 中小企業のワーク・ライフ・バランスを含めた働き方の取組の現状を、調べて載せたらどうか。
- (委員) おそらく、中小企業は考えている余裕はないと思う。
- (委員) 商店が閉店し始めていて、住んでいて寂しい。
- (委員) 出産について考えたらどうか。現在、出産に関連した事件、事故が起きていて、これから産む人はどういうところがいいのかなど分からない。以前は家族やまわりから自然と情報が得られる関係があったが、今はなくなりつつある。近隣の市では、産むナビを作ったり、冊子を作るなどしているようだ。対象者にアンケートをとり、今考えていることを把握した上で問題が見えてきているようである。そういったことはテーマにならないか。
- (委員) 武蔵村山市でも3年くらい前から、「子育て応援ガイド」という出産の手当のことなどが書かれている冊子を、母子手帳交付時に配布している。
- (委員) 出産についての話は、新住民から見た武蔵村山市に含められると思う。武蔵村山に来る新しい人というのは、これから出産という若い世代も多いと思う。
- (委員) 「武蔵村山市の子育て環境」をテーマにしたらどうか。
- (事務局) 前々回に子育て環境という特集だったが、そのときは小学生を中心にしたので、原点である産むことをテーマにしてもいいかもしれない。
- (委員長) 産む前からの段階でも、いろいろとあると思う。
- (委員) 引越してくる前に、そういうことを調べてくるのではないか。
- (委員) ブックスタート事業や子どもの医療費助成制度などもある。子育てに関しては、武蔵村山市は進んでいるともいえる。新しい事業が始まるときは、市報に必ず載るので、毎月市報は確認する必要がある。今、みんなが関心を持っているのは本当にいいことである。
- (委員) 個人的には、なぜ自治会に入らないかが気になる。
- (委員) 小学校の周りに新築の家が建ち、小さい子どものいる家庭がたくさん引越してきたが、自治会には半数も入っていない。話を聞くと、どこに行っても自治会に入ればいいのか分からないとのことである。やっぱり、各家を回らなければだめなんだなと感じた。
- (委員) お祭りのときにも、ただ券をつけて各家に配って回っている。
- (委員) 自治会によって違うと思う。
- (委員) 入りたくても手順が分からず、入れない人もいる。自治会に入れば、横との連携もでき、情報も入ってくるのでいい。
- (委員) 今、自治会も意識を持って、加入促進に取り組んでいる。
- (委員) 共働きで働いていたりすると、どのように運営されているのか、自分たちがどのようにかかわっていくのかが分からない。入る意志はあっても、全体の流れが見えず、知人に話を聞くと小学校に入れば、子ども会もあるから入らなくて平気と言われた。

- (委員) 子ども会は、お祭りに行き、親が手伝うので自治会から補助が出て、子どもたちに記念品が渡せる。そうになると、自治会には入っていないといけなさと感じる。
- (事務局) 小学校に入ると自然と子ども会に加入するが、その子ども会は、自治会の内部組織である。
- (委員) 私の自治会では、子ども会に強制的に全員加入としているので、お祭りのときは加入していないと参加できない。しかし、子どもが中学3年生までは自治会に加入してくれるが、その後子ども会と関係なくなると脱退することが多い。
- (委員) 自治会に入るメリットは何か。自治会の役につくと、仕事が多く、面倒であるとの話である。
- (委員) 一緒にいろいろなことをやっていくのでいい人間になる。基本的にボランティア組織なので、時間も費やし、持ち出しばかりで得はないかもしれない。
- (事務局) 自治会長と話をすると、他にはかえられない人とのつながりができたと言う。それは財産だと。
- (委員) 顔が分かる関係ができていかないと、犯罪も増えるし、何かあったときに助けられない。
- (事務局) 自治会は、普通に平和に暮らしているときには、必要性が高くないのかもしれないが、災害や犯罪が起きたときには一番頼りになるのではないかと思う。
- (委員) 地震などの災害時の支援物資は、自治会単位でおろされると聞いたので、加入していないと後になるというのは事実なのか。
- (事務局) 市民からもその問い合わせがあったので確認したところ、避難所に避難してきた人には、平等に援助するということがあった。しかし、避難所にいる地域を単位に物資を配給するのか、それとも自治会を単位として配給するのかとの話があったとき、自治会を単位に配給することだった。自治会名簿に記載されている人から配給していき、記載されていない人は、第二段階のような形である。
- (委員) 地域コミュニティである。防災の関係も消防署員などが来て、指導してくれる。家事や災害時に、まず助けてくれるのは、80%が地域住民である。警察や消防が到着するまでの間、お互い顔を知っていたり、事情を知っているのが、地域で支えあうのが一番早い。
- (委員) それで、地域の消防団も大事であるということにつながる。
- (委員) 市にもあるが、自主防災ということで自治会にもある。
- (委員) 核家族の現代だからこそ、自治会に入って知り合いを増やすべきなのではないか。
- (委員長) 知り合いになると、自然と子どもを地域で気にかけてもくれ、言葉をかけあえるようになると思う。
- (委員) そうなると入るきっかけが分からないといけな。今の人は、自主的に入りに行くのではなく、お願いされると入るのではないか。自治会を組織している人も、変わらなくてはいけないところもあると思う。もちろん、お互い変わることがベストである。
- (事務局) 自治会の役員たちは、上の年代になっているので、入ってもらえない若い世代の人の意見を聞きたがっている。
- (委員) 入りたくないわけではなく、入るきっかけが分からないという人も多いと思う。
- (事務局) 今は、自治会長さんたちも足を運び、家々をまわっているよう

	<p>である。しかし、留守で会えないことも多いようである。</p> <p>(委員) お隣さんや御近所が声をかければ一番いい。</p> <p>(委員) 私の地区では、古い人たちがばかりで、新しい人も入らない。しかし、行事等は多く、組長になると大変である。日曜日に公会堂の清掃等があったりするので、敬遠してしまうのかもしれない。</p> <p>(事務局) また、既に組織ができていところに、新しい人は入りづらいということもあるかもしれない。</p> <p>(委員) 自分と同じ世代の人がいないと、入ってもつらい。</p> <p>(委員) 地域によっても異なるようだが、自治会に入るといいことがあるというのを、前面に出していけばいいのではないかと。</p> <p>(委員) 大きな「武蔵村山市」というテーマの中で、出産の関係や自治会との関係が含まれていくのではないかと。子育て層の人が見たら、参考になり、自治会との関係で悩んでいる人がいたら、加入しやすくなる等につながればいい。武蔵村山市のみんなの声をもとにまとめたらどうか。</p> <p>(委員) 働くことも入れたい。</p> <p>(事務局) 今出た3つを取り上げて、武蔵村山市のいいことを特集として組んだらどうか。出産なら、武蔵村山病院で出産した人の声を載せたり、仕事でいえば市内の中小企業で、ワーク・ライフ・バランスのような取組をしているところを探し、紹介する。そして、自治会に加入すると、地域の人たちのつながりが持てて、安心できるまちというようにしたらどうか。そうすると、3つのことがつながっていくと思う。</p> <p>(委員) テーマは、「いいところ、武蔵村山」でいいと思う。</p> <p>(委員) 異議なし。</p> <p>(委員) 武蔵村山市全体のいいところは何か。</p> <p>(委員) 自然豊かで、空気がきれいな点ではないか。</p> <p>(委員) 子育て環境としてはいいが、学校に行かせるのは大変である。</p> <p>(委員) やはり、交通の面では不便なところがある。</p> <p>(委員) いいところを載せて、最後に「こうなったらさらにいい」を入れたいらどうか。</p> <p>(委員長) いいところ武蔵村山ということで、出産、仕事、自治会の3つにスポットをあてて、武蔵村山市のいいところをPRしていく特集でいいだろうか。</p> <p>(委員) 異議なし。</p> <p>(委員長) 続いて、誌面構成について考えたい。</p> <p>(事務局) 前回は、YOU・IフォーラムのPRを載せたが、それが今回はなくなる。ふれあいセンターのPRは、今回も1ページ入れたらいいと思う。</p> <p>(委員) YOU・Iフォーラムの結果報告も載せたい。</p> <p>(委員長) 次の情報誌で、何かアナウンスすることはあるのか。</p> <p>(事務局) 特に今のところはない。BOOKについては、今回もふれあいセンターの図書を紹介したらどうか。</p> <p>(委員) 異議なし。</p> <p>< 結論 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第17号の特集のテーマは、「いいところ、武蔵村山」とする。出産、仕事、自治会の3つを取り上げ、武蔵村山市の「いいところ」を記事にする。 ・ 編集の役割分担は次のとおりとする。 「特集」 - 委員全員。
--	--

